

目白大学新聞



「目白大学新聞」バックナンバー
http://www.mejiro.ac.jp/univ/mu_journal/index.html

編集
目白大学社会学部
メディア表現学科
〒161-8539
新宿区中落合1-1-1
TEL
〇三九五九六一三三〇

3・11 そのとき被災地のメディアは?

目白学園恒例の学園祭、桐和祭(新宿キャンパス、10月22、23日)と桐祭(岩槻キャンパス、10月29、30日)が開かれ、盛況のうちに幕を閉じた。桐和祭の初日には、「大震災と社会情報、地域メディア」とそのとき地域のメディアはどう動いたのか?と題したシンポジウムが研心館で開催され、400人ほどの来場者が会場を熱気で包んだ。このシンポジウムは、総務省や新宿区、日本社会情報学会、日本マスコミュニケーション学会などの後援、日本ケーブルテレビ連盟などの協力のもと、目白大学が社会的・学術的貢献の一環として取り組んだ事業である。

シンポジウムでは、石巻日日新聞の近江弘一社長、いわき市民コミュニティ放送の安部正明局長、宮城ケーブルテレビ



研心館で現場の方々から震災でのメディアのあり方について伺った



真に向上するのは
不運の時である

た被災状況のなか、何を考え、どのような活動をしてきたのか報告した。

近江氏は、地域新聞の仕事は「活字で正確な情報を早く、公平に伝えること」であり、電気がなかったため手書きで壁新聞を書いた際、「デマを防ぐための正確な事実と、希望の持てるメッセージを必ずきちんと入れていくことに徹した」と語った。安部氏は、福島は原発問題で状況がより複雑になっており、原発エリアの避難住民や工事関係者が市内に移ってきたのに加え、市民間の意識の温度差も大きく、「誰に向けて何を伝えればいいのか」、悩



桐和祭：岩槻キャンパス

みと葛藤のなかで日々放送を続けていると苦悩を吐露した。設楽氏は、住民に「情報を伝えること、止めないということ」が大切であり、そのためにもコミュニティFMと連携した経緯や今後に向けたCATV局としての対応

▶「人は幸運の時は大に見えないが、真に向上するのは不運の時である」
ベートーベンも敬愛していた、ドイツの詩人フリードリヒ・フォン・シラーのことば。

成人に向かう目白大学

開学式典

十八歳の目白大学。今年の私は好んでこの表現を用いている。平成六年創立の本学を人間に置き換えると、最も感性豊かで瑞々しい活力にあふれた十八歳そのものだ。

そして近々、本学は成人式を祝う。来し方を振り返り、未来を展望する特別な年を迎える。

少し早いですが、本紙で目白大学誕生前後の日々を回顧してみようか。「顧みますと、設置の志を立ててより今日に至る迄、実に多くの段階を踏んで参りました。苦楽を共にしてきた教職員ともども、感無量というのが私の率直な心境であります。」

学長 佐藤弘毅

平成六年五月十八日。目白大学開学記念式典における、私の式辞である。「様々な相談に応じて下さった私学の先輩の先生方、校地探して当学園に好意を寄せられた各地の首長の方々、立地決定に至った岩槻市の市長並びに職員各位、60名に及ぶ土地所有者の皆様、厳しくも温かいご指導を頂いた大学設置審議会の先生方……」

式辞を述べる私の脳裏には、実際に沢山の人の顔が次々に浮かんでいた。「私は、各段階でお世話になった方々を忘れられません。実に多くの方々のお力添えによって得られた今般の認可であり、開学であることを銘記し、いわば創

業の楽しみも苦しみも共有して頂いた方々のことを、私はしっかりと銘記したいと思えます。」

式典には、多彩なお客様をお迎えしていた。文部事務次官、埼玉副知事、岩槻市長などの行政関係者、私学団体代表者、海外の姉妹大学学長、国内の大学学長、地元自治会代表者、その他大勢のお客様が会場はほぼ満席であった。

ところで、学園が大学設置を決定してから開学まで約7年かかった。キャンパス用地を求めるのにかなりの精力が費やされたのだが、教育研究計画の立案は順調に進んだ。

新大学の設置目的については、学園の建学の精神「主・師・親」ののっとり、①個性伸長による自己開発と広く社会に奉仕する人材の育成 ②豊かな創造力と柔軟な思考力とを身につけた人材の育成、③国際社会の平和と福祉の実現に貢献できる主体性のある人材の育成、と定めた。この目的を実現し、変動する社会の諸要請に不断に応じていくために、「育てて送り出す大学」、「国際性豊かに開かれた大学」、「多様な人間交流を目指す大学」など、多面的な構想の下に、新しい大学の像の確立を目指すこととした。



ダンスサークルMASTER PEACEによる公演
桐和祭：新宿キャンパス

「政治の空白が歯がゆい」
災害から8カ月以上が過ぎた現在、被災地はどのような状態なのだろうか。近江氏によると、「瓦礫が片付けられて二次処理されていない状態」、「すべてがこれから」というなかで、「政治の空白が一番歯がゆい」という。「震災までは地域とともに生きていくこと、一途にそれだけをやってきた」が、いまでは震災を風化させずに対外的に伝えていくことも大事な役割になっ

「チュータリング」で外国語を習おう

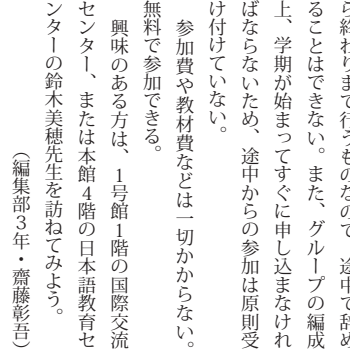
外 国語を話したい人は多いだろう。その習得は難しいものだがひとつ良い方法がある。「チュータリング」という方法だ。それはお互いの言語や文化を教え合う取り組みのことである。

目白大学で行っている「チュータリング」とは、目白大学留学生別科（日本の大学や専門学校に入るための日本語を勉強するプログラム）で日本語を学んでいる留学生と、韓国語や中国語を学んでいる日本人の学生が、お互い勉強している言語を教え合うことである。とはいえ授業のようにやるわけではなく、それぞれグループや1対1のペアで、自分の趣味や好きな芸能人について紹介する。配布された教材を見ながらそれについて話し、時にはお互いの宿題の手伝いもしている。

「チュータリング」は週1回から週3回、1回1時間で行う。30分を日本語で、残り30分を日本人の学生が勉強している言語で話している。

グループの編成をするために、まず趣味などを答えるアンケートを取る。これには「チュータリング」の希望形態も答え、1対1か、グループで行うかを選択する。また別の紙で時間の希望も答える。そのアンケートを

左から 清水克也さん、張嘉傑さん、李明霖さん



基に国際交流センターでグループ編成をする。

この「チュータリング」は主に中国語学科などの外国語学科の参加者が多いが、社会学部や人間学部などの普段外国語に触れ合うことが少ない学部の人でも参加することができ、

ただ、「チュータリング」は学期の始めから終わりまで行うものなので、途中で辞めることはできない。また、グループの編成上、学期が始まってすぐに申し込まなければならぬため、途中からの参加は原則受け付けていない。

参加費や教材費などは一切かからない。無料で参加できる。

興味のある方は、1号館1階の国際交流センター、または本館4階の日本語教育センターの鈴木美穂先生を訪ねてみよう。

（編集部3年・齋藤彰吾）

地

震や自然災害の恐怖は常に私たちの日常に潜んでいる。突如として襲いかかる災害に対応するため、日頃から十分な準備をしておくことが生死の別れ目になる。と言っても過言ではない。しかし災害時グッツを揃えたくても、私たち学生は経済的な理由で揃えが難しいこともある。だが、そんな高価な震災グッツも100円ショップで手に入れることが可能であることをご存知だろうか。今回は100円ショップで購入できる震災グッツを紹介する。

来たる日に備えよ！ 震災時のすすめ

懐中電灯。こちらも100円とワンコインで手に入る必需品だ。災害は必ずしも昼に起きる訳ではなく私たちが深い眠りに就いている深夜に自然災害や地震が発生し停電になった



↑はショップで購入できる懐中電灯の一例

は懐中電灯。こちらも100円とワンコインで手に入る必需品だ。災害は必ずしも昼に起きる訳ではなく私たちが深い眠りに就いている深夜に自然災害や地震が発生し停電になった

100円ショップでは電池も売っているのでも電池と懐中電灯のワンセットで用意した方が災害時に役に立つだろう。

今紹介した緊急災害グッツ以外に災害用道具入れや、カップラーメン、水などの食料、そして絆創膏、消毒液といった様々な商品が売られている。「でも100円ショップだから・・・」などと言わずに足を運んでみてほしい、備えあれば憂いなしの万全な準備をしておいてはいいだろうか。

（編集部3年・奥山雄太）

場合、懐中電灯が重宝する。周りが見えない状態で外へ退避するのは非常に危険で、切れた電線などの二次災害を招くものに触れてしまう可能性は十分にある。

まずは灯りを手にし、周りとの下の安全確認、そして冷静迅速に避難所へ退避することが重要である。

100円ショップでは電池も売っているのでも電池と懐中電灯のワンセットで用意した方が災害時に役に立つだろう。

今紹介した緊急災害グッツ以外に災害用道具入れや、カップラーメン、水などの食料、そして絆創膏、消毒液といった様々な商品が売られている。「でも100円ショップだから・・・」などと言わずに足を運んでみてほしい、備えあれば憂いなしの万全な準備をしておいてはいいだろうか。

（編集部3年・奥山雄太）

「卒業までにやっておきたいことは、何ですか？」

本紙アンケート調査

目白大学の学生は充実した大学生活を送っているだろうか。目白大学新聞編集部では目白大生にアンケートを行い、大学生活においての意識調査を行った。

このアンケートは、大学四年間で卒業までにやっておきたい事を13の項目に分け、その中から当てはまるもの3つを選択してもらった形式で行った。協力していただいた学生の数は新宿キャンパスと岩槻キャンパス両方で合計160名。その結果が左の表の通りである。

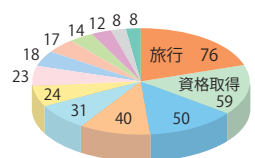
上位を占めている項目の多くは「旅行」や「趣味」、「恋愛」など学業以外のもので、その中でも一番多くの票を得たのが、「旅行」で合計が76票であった。具体的に言いたいところの多くは、今日日本で大ブームになっている韓国を筆頭に、ヨーロッパやアメリカなど海外旅行が目立つ結果となった。この結果には外国語学科の存在が特に大きく、留学も含めて日本以外の国に魅力を感じている学生が目白大学にはたくさんいることが窺える。このように学外活動の多くが票を占める中、「勉強」や「サークル」などの票は予想以上に少なかった。

またこのアンケートでは「資格取得」や「人脈を広げる」といった就職に関係する項目の票も目立って多い。主に「資格取得」を選択している学生は人間学部や経営学部、保健医療学部が大半を占めていて、就職活動に必要な資格が必要なのであると推測ができる。「人脈を広げる」項目を選んだ学生は学部によつての偏りはなく、全体的に票があがっていた。就職活動の第一歩として学生が自らアクションを起こそうとしている意識が、票の数に反映されたものだと感じた。

今回のアンケートの結果、目白大生は将来のことを見据えて活動を起こしたり、興味を持ったことに対して学ぼうとする意欲が高いといった、活発な印象を受けた。近年大学生の就職難が騒がれているが、アンケートからはそれに前向きに立ち向かおうとしている目白大生の姿が窺い知ることができよう。

（編集部3年・阿佐見哲也）

卒業までにやっておきたいことは何ですか？



- 旅行
- 資格取得
- 趣味を楽しむ、見つける
- 人脈を広げる
- 恋愛
- 夢を見つめる
- 勉強
- アルバイト
- アサーション
- サークル
- ボランティア
- その他



皆さん、卒業までにやっておきたいことは、何ですか？

Interview



猫 ひろし

名：瀧崎邦明 (たぎざき くにあき)
生年月日：1977年8月8日
出身：千葉県市原市
学部：人文学部 (岩槻キャンパス)
学科：言語文化学科 ※改編されました

目白大学卒業生が、夢に向かってチャレンジを続けている、お笑いタレントで本学の卒業生、猫ひろしさん(34)が、2012年ロンドンで開催されるオリンピックでなんとカンボジア代表のマラソン選手として出場を狙っている。この情報をいち早く掴んだ目白大学新聞編集部が独占インタビューをした。

すでにカンボジア国籍を取得した猫ひろしさんは、11月16日、インドネシアのパレンバンで、ロンドン五輪出場カンボジア代表選考会を兼ねた東南アジア大会男子マラソンに出場し、自己新記録の2時間37分39秒で5位に入った。しかし、カンボジア五輪委員会が定めていた目標タイムの2時間31分台には届かず、オリンピック出場の最終決定は来年2月ごろになるのではないかといい。

言葉はチャームル(猫)です！

編：いつからマラソンに力を入れ始めましたか？

猫：4年ぐらい前です。

編：きっかけを教えてくださいませんか？

猫：番組のマラソンコーナーで走ってからです。もともと、長距離は得意なので。それから、走るお仕事が増えました。本格的にマラソンをやり始めたのは、第2回(2008年)の「東京マラソン」からです。フルマラソンは未経験だったので、真面目にやってみました。

編：2010年3月21日にはアンコールワット国際トライアスロン大会で総合6位になったそうですね。いつから、カンボジアでの大会に参加し始めたのですか？

猫：一昨年だと思えます。マラソン大会を探していて、紹介されたのがカンボジアのトライアスロン大会でした。大会に出ているうちにカンボジアのオリンピック委員の方と知り合いになりました。

編：普段はどのようなトレーニングをしていますか？

猫：勉強しています。一番初めに覚えたい

猫ひろし、カンボジア代表でオリンピックに出場？

ていつしやいますか？

猫：いろいろあります。1日20kmくらい走っています。800m走って、1分半休むことを繰り返したりしています。5kmをダッシュ。主に日頃から走り込みをしています。大体、時間があまりないと、仕事先へ行き帰りに走っています。腕立て、筋トレも。あとは、週2回加圧トレーニング行つて体もきたえています。

編：カンボジアに学校を建てる計画もいつしやるのですよね？

猫：はい。カンボジアでやりたいことがたくさんあるのです。その中の一つにオリンピックがあつて、カンボジアに学校を建てることも考えています。学校に行けない子も多いので、学校の楽しさを知ってもらいたいです。

編：芸人さんなので、全てにおいて人々に楽しさ提供したいのですね。どんな学生生活を送っていましたか？

猫：図書館で本を読んだり、お笑いのステージを頻りに観に行つてお笑いの勉強をしていました。

編：学生生活でやっておくべきことは何かありますか？

猫：パソコンです！僕は、学生時代にあまりパソコンを勉強していませんでした。最近、頻りに使用するようになって学んでおくべきだと思いました。

編：最後に目白大学生に一言お願いします。

猫：好きなことを見つけて、学生生活を充実させてください！楽しんで下さいな〜！

(編集部3年・鈴木佑理子)

大学近辺に漫画の聖地があるのだ！



本

学の新宿キャンパスから10分強足を伸ばした所に通称トキワ荘通りがある。

トキワ荘とは、マンガ界では伝説となっているアパートで、その昔手塚治虫や藤子不二雄、そして赤塚不二夫などのマンガ界の巨匠たちが青春時代を過ごした場所である。そのトキワ荘の跡地や、彼らが愛してやまなかった中華料理店「松葉」がある。他にも「トキワ荘のヒーローたち」という記念碑が建てられていたり、足繁く通うマンガファンが絶えない。

そのトキワ荘跡はのアパート「紫雲荘」が今注目を集めている。現在の紫雲荘の大家である大山朱実さんがまだ幼い頃、その一室には赤塚不二夫の仕事部屋があつた。赤塚不二夫の笑撃の一生は今年四月に実写映画化され、他界してもなお人気は健在だ。そんな赤塚不二夫は、元々トキワ荘の住人だったが、部屋が手狭になったため、仕事部屋にと紫雲荘を借りたのであつた。また彼のアシスタントで、のちに妻となる登茂子夫人との出会いもこの紫雲荘だつた。

その紫雲荘の空き部屋(写真)に住みたいというマンガ家の卵を公募し、街ぐるみで応援することで、地域にマンガ文化を復活させようという企画が発足した。その名も「紫雲荘・活用プロジェクト」である。発案者はトキワ荘通りで、時計店スエヒロ堂を営む小出幹雄さんだ。

大家の大山さんは「赤塚先生や他のトキワ荘のマンガ家に子供の頃よく遊んでもらったことを覚えている。この紫雲荘にはそんな温かさや、赤塚先生をはじめ多くのマンガ家、編集者の残した雰囲気は今も残っている。ここで良い刺激を受けながらマンガを描いてどんどん成長してくれたら嬉しい」と話している。

さらに小出さんも「私たちは普通の一般人で、マンガ家を育てるなんてことはできない。けどこういった場所を提供したり他にも手助けはできる。この紫雲荘からマンガ家を送り出し、いつかのトキワ荘のようにしたい。この地域をマンガ好きで溢れさせ、ずっとこの地にマンガ文化と、紫雲荘を残したい」と考えている。

紫雲荘に新しく入居するマンガ家の卵2名も決定し、以前から住むプロマンガ家の桐木憲一さんを含め3名が切磋琢磨していく。今後は紫雲荘ではプロのマンガ家や編集者を呼び、講演会やトークイベントの開催を計画している。また、スエヒロ堂をはじめ近辺の商店では様々なお土産も購入できる。一度訪れてみてはいかがだろうか。

(編集部3年・岩田恭平)



歴史を感じさせる紫雲荘

被災地に花を

短大生のボランティア体験記

3・11東日本大震災で、壊滅的な被害を受けた宮城県気仙沼市にコスモスを植えるボランティア活動が、目白短期大学生生活学部の大出英子准教授が中心となって実施された。種をまいたのは、「はまなすの丘」という介護老人保健施設が建つ丘の斜面で、この高台から見下ろせる小泉という町は津波に流され、跡形もなく破壊された。このフラワープロジェクト、湖山医療福祉グループ支援、に同学科1年生の大野寛子さんと、小林未来さんが参加、2人がボランティア体験を綴った。



雨の中、急斜面にコスモスの種をまく学生たち。滑らないで種をまくのに一苦労。コスモスの種は強く、土を深く掘らなくても種をまくことができる。ボランティア学生にもまきやすく、被災地の人々の心を癒すには最適な花だろう。

私たちは6月10日の夜、中井に集合、貸切バス1台に乗り、他短大生24人と約8時間かけて気仙沼市に向かいました。最初にこのプロジェクトの話聞いたとき、この種まきで少しでも現地の人が明るく、活気づいてくれればいいなと思いました。しかし、実際に気仙沼に着くと、そんな思いとは裏腹に、種をまくる平地は無く、大震災から3カ月がたつていたにもかかわらず、「瓦礫・ゴミ・家具などの残骸で溢れている、人々が住んでいたと思えない廃墟の町が辺り一面広がっていました。現地に着くと私たちは二つの班に分かれました。一つは種まき班。「ホー」という道具を使って土を掘り、丘の斜面にコスモスの種をまいていきます。途中、激



学生たちの努力のかいあって、雑草の中からキレイに咲いたコスモス。

しい雨も降ってきて、かなりの急斜面だったので何度も滑り落ちそうになりながら作業をしました。もうひとつは、パーベキュー班です。近くの避難施設となっていた小泉中学校を訪れ、おにぎりをひたすら握り、お肉をひたすら焼き、被災者の方と一緒に準備したお昼ご飯を中学校や仮設住宅に避難している方々に振る舞いました。

この体験を通して、私たちは少ない時間の中で、与えられた作業を淡々と行うことしかできません。自分たちの無力さを突き付けられました。それでも、いくら私たちの努力が実にならずかなものでも、海沿いの国道からも見ることでできる斜面全体にコスモスの種を植えられた達成感を肌で感じることでできて、とてもよかったです。

訪れた避難所では、お年寄りから子供まで約100人以上の方々が避難されているなど被災の状況を直接聞くことができ、現地で大々さんに出会いました。その中で、少し足の不自由な高齢者の方がいて印象に残っています。その方は、仮設住宅に住んでいますが、やはり不自由でとても心配になりました。

最後に製菓学科が作ったお菓子を被災地の方に配ったとき、その不自由な方が目に涙をためながらお礼を言ってくれたのを今でも鮮明に覚えています。

多分その後もしばらく、小泉中学校で避難生活を送られたのではないのでしょうか。何もなくなってしまう町に、いつか私たちが植えたコスモスの花が咲き誇り、今を生きているため助け合いながら生活をしている被災地の方々の不安な気持ちに、少しでも元氣と安らぎを提供できたらと心から願いました。また、丘の斜面全体がコスモス色に染まることを祈りました。

まだまだ私たちのボランティア活動に対する心構えが未熟で、現地の人に不満な思いをさせてしまった場面も何度かあったのですが、このプロジェクトは今限りで終わらせたいと強く、続けていくことが大事だと痛感しました。今回は車中泊に加えて、雨の中の種まきとかなりハードな作業でしたが、一生に残るような貴重な経験をさせてもらえたことに感謝し、今後も積極的にボランティア活動に参加していきたいと思えます。

父兄のための目白大学周辺案内

ご存知だろうか。大学周辺の**中井、落合近辺には是非訪れてみたいスポットがいくつかある。そのいくつかを紹介したい。**
(編集部3年・伊藤淳一)



●ホビーセンターカート東京

鉄道模型の展示・販売を行っている。鉄道模型に少しでも興味があれば楽しめる場所だ。まず店内の広さに驚くだろう。2階、3階と2つのフロアに分かれ、2階は展示コーナーになっており、世界の鉄道模型がジオラマを走行している。500円以上買うともらえる運転券があれば、ジオラマに自分の好きな鉄道模型を走行させることができる。また2階には、ローカル鉄道から誰もが知っている鉄道まで様々な鉄道模型が展示されている。3階では、鉄道模型が販売されていて、さらに屋外には実物の電車が展示されている。



●レストラン・エシャロット

フランス料理といっても気軽なビストロなので、リーズナブルで美味しいフランス料理を味わえ、店内も賑やかで明るい雰囲気である。ランチメニューは前菜、メイン、デザートにドリンクが付く1680円のコース。前菜はサラダやかぼちゃのスープなど。メインは豚肩ロースのソテーや真鯛のソテーなどがある。デザートはタルト・ケーキ・アイスなどがあり、味と見た目の両方で楽しむことができる。営業時間は11:45~14:00のランチ営業と18:00~21:30の営業を行っている。定休日は日曜日。電話 03 (3953) 9986



●喫茶パレット

朝9時から営業している喫茶店。9:00~11:30はモーニングサービス、11:30~13:30はランチタイムを行っている。パレットのおすすめメニューは30種類あるスパゲッティで、ホワイトソース、和風、トマトソース、バターと4種類の味付けから選べる。店内は、一人ゆっくりコーヒー飲み、友達とランチを食べながら話をするのもできる落ち着いた雰囲気だ。また、壁にはプロ、アマが撮った写真が1ヶ月交替で展示されている。パレットでケーキセットを注文し、店主と世間話をするのもいいだろう。パレットは、地域密着型の温かみと癒しのある店である。営業時間 9:00~18:00(土日祝を除く) 電話 03 (3951) 5470



●林芙美子記念館

「放浪記」「浮雲」などの作品で有名な作家林芙美子が昭和16年8月から昭和26年6月28日に生涯を閉じるまで住んでいた建物がある所だ。記念館にある庭には、四季折々の草花を楽しむこともできる。また、建物にも様々な工夫が施されており、ボランティアの説明を聞きながら散策すればさらに興味が沸くはずだ。開館時間は、午前10:00~午後4:30まで(ただし入館は午後4:00まで) 休館日は、月曜日(月曜日が休日の場合は、その翌日) 年末・年始(12月29日~1月3日) 入館料は、一般150円、小・中学生50円。団体20人以上の場合は、一般80円、小・中学生30円。電話 03 (5996) 9207



悩みある学生は「学生相談室」へ

「学生相談室」は「人間関係に自信を持つことができたい」、「勉強に集中することができない」、「家族との関係について」や、「人間関係や恋愛のこと」など、どんなことでも無料で相談できる。もちろん秘密厳守である。学生だけでなく、教職員や父兄も、学生のことでこの相談室を利用することができる。

残念ながら、「学生相談室」はあまり広く知られていないようだ。悩みを抱えているのに、どこに相談していいのかわからない学生が多いのではないだろうか。「学生相談室」の富田貴子相談員は、「学生相談室」の普及のために取り組んでいる。パンフレットを配布し、「昨年導入した「お昼休みアワー」のチラシやポスターの掲示をしている。悩みを持っている学生は、一人で悩みを抱えずに相談に来てほしい。気軽に足を運んでください」と富田さん。父兄にも「困ったことがあったら、直接電話を頂くか、担任やゼミの先生を通して気軽に利用してください」という。

小さな悩みを抱えていても迷わず「学生相談室」に自ら足を運べば、相談員も喜んで相談のつてくれるはずだ。「学生相談室」は、一号館に近い二号館の二階にある。開室時間は月曜日から金曜日まで、十時から十九時までで、原則として予約制である。(電話番号)03・5996・3734 (編集部3年・安江景祐)

編集後記
目白大学新聞は、本学の唯一の大学新聞です。大学、短大、大学院はもとより、新宿や岩槻キャンパス、大学周辺の中井や落合などの話題も掲載し、毎年約7000部を保護者のもとに郵送しています。企画・編集は社会学部メディア表現学科の学生たちで行っていますが、大学の教員・学生なら誰でも寄稿できます。編集委員も他学部・学科の教員によって構成されていますので、大学全体を代表する新聞だといえます。バックナンバーも大学のHP(「学部」からアクセス)で読めます。鈴木佑理子・編集長